

1. 略歴

1990年3月	北海道大学文学部文学科言語学専攻課程卒業
1990年4月	旭化成工業株式会社入社
1994年3月	明治大学文学部史学地理学科考古学専攻卒業
1996年3月	東京大学大学院人文社会系研究科考古学専門分野修士課程修了
1996年4月	東京大学文学部助手（附属常呂実習施設勤務）
2004年4月	北海道常呂町教育委員会社会教育課ところ遺跡の森主幹
2005年2月	博士（文学）学位取得 東京大学大学院人文社会系研究科
2006年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授
2018年11月	東京大学大学院人文社会系研究科 教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

北東アジア考古学

b 研究課題

北東アジア地域の考古学的研究を専門としており、特に近年は以下の3点を主要な課題として、北海道でのフィールドワークを中心とした調査研究を行っている。

- (1) アイヌ文化成立過程の考古学的研究
- (2) 日本列島とアジア大陸の「北回りの交流」に関する研究
- (3) 東北アジアにおける「窪みで残る堅穴群遺跡」に関する研究

c 概要と自己評価

上記研究課題について、2018年度～2019年度には以下の研究をおこなった。

1) 北見市大島遺跡群の発掘調査

北見市大島遺跡群は、擦文文化の堅穴住居等からなる集落遺跡である。アイヌ文化の直接の母体になったと考えられる擦文文化の終末過程や、擦文文化とオホーツク文化の関係について解明するため、北見市大島遺跡群（大島2遺跡・大島1遺跡）の発掘調査を実施した。この調査は2010年度から継続して実施しており、2013年度までの調査成果についてはすでに報告書を刊行している。2018年度から2019年度にかけては、大島2遺跡で堅穴住居跡2軒の発掘調査、大島1遺跡で地形測量調査と試掘調査を実施し、堅穴住居跡の分布や内部の構造、出土遺物、住居の廃絶儀礼、オホーツク文化との関連等について知見を得た。本遺跡群については、2019年度以降も調査を継続する予定である。

2) 北見市トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点の研究

北見市トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点において、1998年度～2005年度に行われた発掘調査で出土した遺物のうち、これまで未報告であった資料について、報告書を刊行して調査成果を公開した。報告した資料の主体は、この地点で発掘されたオホーツク文化期の堅穴住居跡と関連するもので、それらの資料の分析によって本遺跡の時期や集落の構造について新たな知見を得ることが出来た。

3) 続縄文土器とオホーツク土器の型式編年に関する研究

熊木がこれまで行ってきた研究のうち、続縄文土器とオホーツク土器の型式編年にかかる成果を、単著『オホーツク海南岸地域古代土器の研究』として総括し、刊行した。

d 主要業績

(1) 著書

単著、熊木俊朗、『オホーツク海南岸地域古代土器の研究』、北海道出版企画センター、2018.7

共著、北見市史編集委員会編、『新北見市史 上巻』、北見市、2019.9

共著、熊木俊朗編、『トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点 (2) 一出土遺物の追加報告一』、東京大学大学院人文社会系研究科附属北海文化研究常呂実習施設、2020.3

(2) 学会発表

国内、福田正宏・M. Gablirchuk・國木田大・田尻義了・M. Gorshukov・江田真毅・木山克彦・A. Malyavin・夏木大吾・足立達朗・張恩恵・太田圭・田邊えり・熊木俊朗、「ロシア・ユダヤ自治州における考古学的調査（2017・2018年

度)」、第20回北アジア調査研究報告会、2019.2.23
国内、夏木大吾・太田圭・西村広経・山田貴博・渡邊伶・佐藤宏之・熊木俊朗、「北海道北見市吉井沢遺跡の調査成果(第12次)」、第20回北アジア調査研究報告会、2019.2.23
国内、熊木俊朗・夏木大吾・市川岳朗、「2018年度北海道北見市大島遺跡群発掘調査報告」、第20回北アジア調査研究報告会、2019.2.23
国内、萩野はな・福田正宏・熊木俊朗・齋藤謙一・夏木大吾・張恩恵・西村広経・太田圭・國木田大・佐藤宏之、「北海道宗谷地方における縄文遺跡群の実態調査(2019年度)」、第21回北アジア調査研究報告会、2020.2.15
国内、熊木俊朗・夏木大吾・中村雄紀、「2019年度北海道北見市大島遺跡群発掘調査報告」、第21回北アジア調査研究報告会、2020.2.15
国内、千原鴻志・佐野雄三・熊木俊朗、「北見市大島2遺跡3号・4号竪穴住居址出土炭化材にみる擦文文化における径級・加工法による樹種の選択利用」、第70回日本木材学会大会研究発表、2020.3.16

(3) 展示

「常呂資料陳列館第8回企画展 トコロ貝塚 一発掘から60年後の再評価」、夏木大吾、2018.11.5～2018.12.24
「常呂資料陳列館第9回企画展 常呂実習施設コレクション 一市外の遺跡から」、夏木大吾、2019.11.6～2019.12.23

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、北見工業大学、「オホーツク地域と環境」、2018.6
特別講演、北海道女性農業者ネットワークきたひとネット、「『食』からみた北海道の先史文化」、2018.7
特別講演、網走市教育委員会、「オホーツク文化 調査の今昔」、2018.10
特別講演、斜里町立知床博物館、「オホーツク土器の編年から何が見えるか」、2019.2
非常勤講師、北見工業大学、「オホーツク地域と環境」、2019.6
特別講演(第27回環オホーツク海文化のつどい)、北の文化シンポジウム実行委員会・紋別市立博物館・紋別市立図書館、「竪穴群遺跡と擦文文化」、2019.8
特別講演(利尻学講座2019「古代・利尻島を取りまく交流史」)、利尻富士町教育委員会、「オホーツク文化のはじまりとスサヤ式土器」、2019.10
特別講演(地域の文化財普及啓発フォーラム 北海道の古代遺跡)、北海道文化遺産活用活性化実行委員会、「オホーツク文化の集落遺跡」、2019.12

(2) 学会

国内、日本考古学協会、埋蔵文化財保護対策委員、2018.4～

(3) 行政

自治体、北海道教育庁、北海道東部の竪穴住居跡群調査懇談会構成員、2018.10～
自治体、北見市教育委員会、教育政策、文化財審議委員会委員、2018.4～、史跡常呂遺跡整備専門委員、2018.12～、
史跡常呂遺跡整備基本設計プロポーザル選定委員、2019.9～
自治体、斜里町教育委員会、斜里町遺跡調査活用検討委員、2020.2～

(4) 学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員

教育機関、北海道立北方民族博物館、研究協力員、2018.8～
教育機関、北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル北見、施設運営協力委員会委員、2018.6～
任意団体、一般財団法人北方文化振興協会、理事、2019.5～

(5) Web サイト編集・制作

「史跡モヨロ貝塚ガラス乾板写真デジタルアーカイブ」<http://www.lu-tokyo.ac.jp/moyoro/> (2019.2.4 公開)
「トコロチャシ跡遺跡群発掘調査写真デジタルアーカイブ」http://www.lu-tokyo.ac.jp/t_chashi/ (2020.3.4 公開)
「常呂川下流域の考古資料コレクション」http://www.lu-tokyo.ac.jp/t_collection/ (2020.3.4 公開)